

事故ゼロへの点検と整備

04年の71件から減少 啓発活動の効果

杉山愛さん



「毎日の点検で異常は分かる」



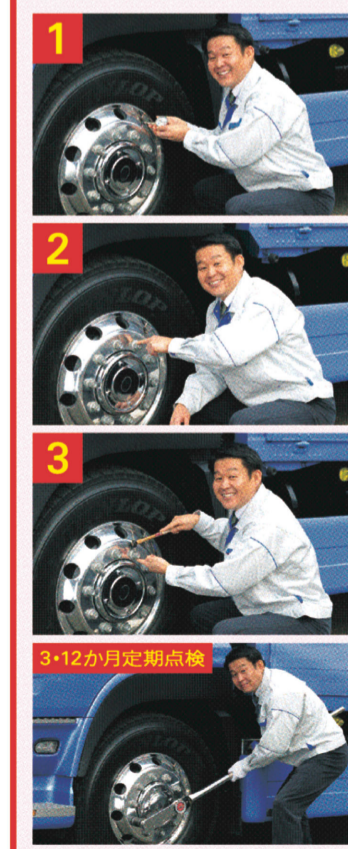
田端氏「タイヤ交換時は規定のトルクで締める」

花田虎上さん



「物流の要だからこそ」

「物流の要だからこそ」
「プロとしての仕事の一環」



日常の点検方法

- 1 タイヤ空気圧の点検**
タイヤの亀裂や損傷、異常な摩耗がないこと、タイヤの溝の深さが十分であることを点検するとともに、空気圧が規定の範囲内であることを点検する。
特に、ダブルタイヤや偏平ラジアルタイヤの場合は、空気圧が低下していても目視では分かりにくいので、エアゲージを使用して点検する。タイヤの空気圧が不適切なまま、走行を続けると、パンクやバーストを招きやすくなる。また、空気圧が低いまま走行したり、パンクしたまま走行するとホイール・ボルトに無理な力がかかり、ボルト損傷の原因となる。
- 2 目視での点検**
①ナットに緩みはないか。②ナットは付いているか。③サビ汁は出ていないか。④ボルトの出っ張りには不ぞろいではないか。⑤ホイールにひび割れはないか。⑥ボルトが折れていないかを点検する。
- 3 点検ハンマや小型ハンマを使用しての点検**
①ホイール・ナットの緩みや脱落、ホイール・ナットに損傷などの異常が無いことを点検すること。
②ホイール・ナットの下側に指を添え、点検ハンマや小型ハンマでホイール・ナットの上側面をたたいた時に指に伝わる振動が他のナットと違っていたり、濁った音がしないかを点検する。異常がある場合は、ナットの緩みやボルトが損傷している恐れがある。

自動車点検基準のポイント

〈3か月定期点検〉
ホイール・ナットが規定のトルクで取付けられていることを、トルクレンチなどを用いて点検することを規定。
〈12か月定期点検〉
ホイールを車から取外して、ディスク・ホイールやホイール・ボルトやナット、ハブなどの関連部品を細かく点検すること、取付けの際には規定トルクでホイール・ナットを締付けることを規定。
〈その他〉
タイヤ交換時の注意として走行後に一度増締めすること、正しい組み合わせのボルト・ナットを使用することを規定。
なお、平成22年より採用された新・ISO方式ホイールは、左車輪も右ねじなので、締める方向を確認の上作業する。 ※ねじ方向(右ねじ)の識別は、ボルトに「R」の表示あり。

「壊れる前に点検・整備を」
「大型車運転の点検・整備の啓発活動に取り組み、日本自動車工業会の梅本久義特別参加」

「活動内容に詳しくなった宮田佳代子」

- 国土交通省
- 日本自動車工業会
- 全日本トラック協会
- 日本バス協会
- 全国自動車協会
- 日本自動車整備振興会連合会
- 日本自動車販売協会連合会
- 全国タイヤ商工協同組合連合会
- 日本自動車タイヤ協会
- 全国石油商業組合連合会
- 日本自動車輸送工業会
- 日本自動車輸入組合
- 日本自動車機械器具工業会
- 日本自動車機械器具工業会
- 自動車用品小売業協会